

[PRESS RELEASE]

2012年6月8日
東京大学医学部附属病院

アルツハイマー型認知症治療候補物質 TAK-070 の譲渡契約締結について

この度、国立大学法人東京大学（本部：東京都文京区）は、武田薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、以下「武田薬品」）より、同社が創製したアルツハイマー型認知症治療薬の候補物質である TAK-070（開発コード）の譲渡を受ける契約を締結しました。本契約に基づき、TAK-070 が商業化された場合、東京大学は武田薬品に対し一時金及び販売額に応じた一定率のロイヤルティを支払います。その他の経済性条件については開示していません。

東京大学医学部附属病院は、厚生労働省の「早期・探索的臨床試験拠点」の1つとして選定されており、認知症と神経難病・精神疾患の克服に向けて、学内外の新薬候補物質を導入し、早期臨床試験（注1）から POC 試験（注2）までを継続的に実施する体制の整備を進めています（http://www.cresc.h.u-tokyo.ac.jp/plu/about_plu.html）。今般、武田薬品から導入する TAK-070 は、本拠点で臨床研究を実施する初めての new drug 候補物質になります。

TAK-070 は β セクレターゼ阻害活性を有する化合物です。アルツハイマー型認知症の原因物質とされるアミロイド β タンパク質は、タンパク質分解酵素の一つである β セクレターゼが、アミロイド β タンパク質の前駆体に作用することによって産生されます。TAK-070 は、この β セクレターゼを阻害することで、アミロイド β タンパク質の産生を抑制します。

早期・探索的臨床試験拠点整備事業 総括研究代表者の岩坪威（大学院医学系研究科神経病理学分野・教授）は、「当院が J-ADNI（注3）などの大規模臨床研究ネットワークへの参加を通じて培ってきたアルツハイマー型認知症の画像診断やバイオマーカーに関するノウハウを活用し、アルツハイマー型認知症の予防または進行を抑制する可能性がある TAK-070 の臨床研究を進め、日本発の革新的な医薬品の創出に貢献してまいります」と述べています。

武田薬品の医薬研究本部長である Paul Chapman 氏は、「当社は全ての新薬候補物質について、患者さんのために役立てたいと考えており、今般、自社での開発を中止した TAK-070 を東京大学に譲渡することにしました。東大病院の『早期・探索的臨床試験拠点』において、同病院が保有する最先端の臨床研究の知見により、近い将来、TAK-070 を含めアルツハイマー型認知症治療薬が開発されることを切に願っています」と述べています。

【注 釈】

注 1： 早期臨床試験

ここではヒトで初めて薬物を投与し、安全性、体内動態などを検証する First in Human 試験を含む Phase I 試験をさします。

注 2： POC (Proof of Concept) 試験

新薬候補物質の有効性や安全性を臨床で確認し、そのコンセプトを検証すること

注 3： J-ADNI (Alzheimer' s Disease Neuroimaging Initiative)

アルツハイマー型認知症の発症過程を縦断する脳画像研究

〈本件に関するお問合せ先〉

東京大学医学部附属病院 早期・探索開発推進室 室長

東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野 教授

岩坪 威

電話：03-5841-3543

FAX：03-5841-3613

E-mail：iwatsubo@m.u-tokyo.ac.jp

〈取材に関するお問合せ先〉

東京大学医学部附属病院 パブリック・リレーションセンター

担当：小岩井、渡部

電話：03-5800-9188 (直通)

E-mail：pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp
